日本遺族通信

令和３年12月15日
第852号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0074東京都千代田区九段南一丁目六番一七号
千代田会館三階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　盛川英治
毎月１回15日発行
定価　１部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

日本遺族政治連盟
推薦候補者を決定
第26回参議院議員通常選挙

日本遺族政治連盟は12月13日、緊急の常任理事・監事合同会議を開催し、令和４年夏に行われる第26回参議院議員通常選挙における比例代表候補者の擁立に向けて協議し、前衆議院議員・福井照（ふくいてる）氏を日本遺族政治連盟唯一の比例代表推薦候補者とすることを決定した。

日本遺族政治連盟は、第26回参議院議員通常選挙の本連盟唯一の比例代表候補者を前衆議院議員・福井照（ふくいてる）氏にすることを決定した。本連盟は、比例代表推薦候補者の擁立に向け、令和元年9月4日に開催した常任理事会から協議を続けてきた。

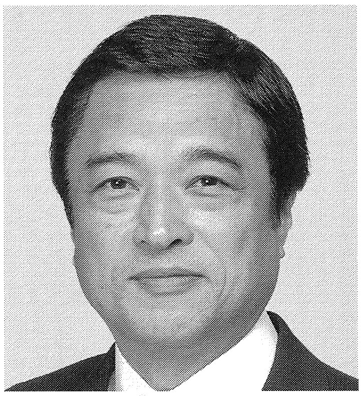
連盟会員の高齢化は否めず、得票数の伸び悩みが続いているなかで、遺族会の声を国政に届ける議員の擁立が急務となっていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大で、役員が東京に集まり会議ができない状況が続いた。

そして、感染状況が落ち着いたところで本年6月29日に都道府県本部長会議が開かれ、戦没者遺族の声を国政に届けるために遺族会代表を擁立し選挙をすることが組織決定され候補者の選考について、水落敏栄理事長に一任することが了承された。

その後、水落理事長が自民党本部から、11月末に福井照氏の紹介を受け、12月13日、緊急の常任理事・監事合同会議が開催された。

水落理事長は「目前に迫った妻の特別給付金、特別弔慰金の継続のためにも、遺族のために汗をかく遺族会の代表を国政に送らなければならない。戦没者遺族の代弁者として、福井照さんを国政に送るべく頑張りましょう」と挨拶し、出席した役員からは、遺族会のおかれた現状を考え、福井照前衆議院議員が最善の候補者であることを確認し、本連盟の比例代表推薦候補者として擁立することを満場一致で決定した。

参議院議員候補
福井照氏の略歴



昭和28年12月14日　大阪市阿倍野生まれ　68歳
昭和51年　東京大学工学部土木工学科卒業後、建設省に入省
平成12年　第42回衆議院議員選挙高知第1区に出馬・初当選以後7期連続当選

主な役職

政府
平成18年　農林水産大臣政務官
平成24年　文部科学副大臣
平成30年　内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策・消費者及び食品安全・海洋政策）領土問題担当

衆議院
平成23年　沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長
平成26年　文部科学委員会委員長

自由民主党
平成19年　水産部会長
平成20年　国土交通部会長
平成23年　国土強靭化総合調査会事務総長
平成26年　地方創生実行統合本部事務局長
平成28年　国土強靭化推進本部事務総長
平成29年　国際局長
令和3年　「こども・若者」輝く未来創造本部事務総長

推薦を受けて

過日開催されました緊急常任理事・監事合同会議において、来夏参院選の日本遺族政治連盟唯一の候補に決定いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

私は、昭和28年大阪市阿倍野区生まれの68歳です。日本全国どこに暮らしていても、お一人お一人が、より豊かな充実した人生を送るための国づくりに携わりたいとの思いから、建設省に入省、その思いを更に具現化すべく平成12年衆議院高知1区から出馬しました。

以来、7期21年の政治家生活で、多岐にわたる分野の様々な施策に取り組んでまいりましたが、中でも「国づくりは、人づくり」としての教育の重要性を痛感しました。加えて、委員長、特命担当大臣として沖縄及び北方領土の歴史に触れ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを深く考えるようになりました。

初当選以来、お世話になっている古賀誠先生には、「政治とは平和な国をつくること」だと叩き込まれました。そして、みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会、遺家族議員協議会に入会し、遺族の皆様の声を聞かせていただき、改めて平和な社会を守ることが政治の責任であるとの思いを強くしました。

そうした中で、過日自民党より遺族会さんが来夏参院選の候補者を探しておられると伺い、水落理事長に面会の機会を得て、私の思いを伝えました。

私の親族に戦没者はいませんが、戦中戦後の労苦を父母から聞いて育ち、戦争の影を感じた最後の世代だと思っています。戦後76年が経過し、戦後生まれが9割となりました。二度と戦争の惨禍を繰り返さないためには、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に語り継ぐ遺族会の皆様のお力が必要です。私は、誇り高き故郷の弥栄を願い、帰れなかった英霊の御霊に応える国づくりを目指し、ご遺族皆様の代弁者として皆様の声を国会に届ける覚悟を固めました。若輩ではございますが、皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、御礼の挨拶といたします。

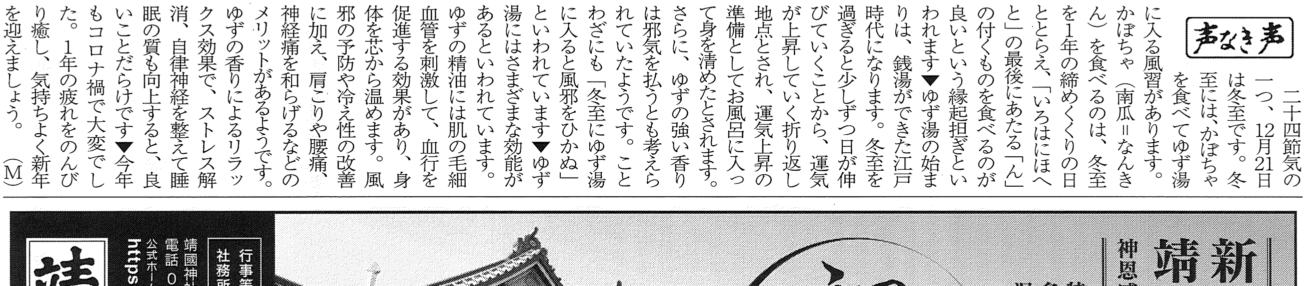
前衆議院議員　福井　てる

水落会長が情報監視審査会会長に
参院臨時国会で

12月6日、第207臨時国会が召集され、参議院は常任委員長と特別委員長、審査会長を決め、水落敏栄本会会長（参議院議員）が情報監視審査会会長に就任した。

声なき声

二十四節気の一つ、12月21日は冬至です。冬至には、かぼちゃを食べてゆず湯に入る風習があります。かぼちゃ（南瓜＝なんきん）を食べるのは、冬至を1年の締めくくりの日ととらえ、「いろはにほへと」の最後にあたる「ん」の付くものを食べるのが良いという縁起担ぎといわれます▼ゆず湯の始まりは、銭湯ができた江戸時代になります。冬至を過ぎると少しずつ日が伸びていくことから、運気が上昇していく折り返し地点とされ、運気上昇の準備としてお風呂に入って身を清めたとされます。さらに、ゆずの強い香りは邪気を払うとも考えられていたようです。ことわざにも「冬至にゆず湯に入ると風邪をひかぬ」といわれています▼ゆず湯にはさまざまな効能があるといわれています。ゆずの精油には肌の毛細血管を刺激して、血行を促進する効果があり、身体を芯から温めます。風邪の予防や冷え性の改善に加え、肩こりや腰痛、神経痛を和らげるなどのメリットがあるようです。ゆずの香りによるリラックス効果で、ストレス解消、自律神経を整えて睡眠の質も向上すると、良いことだらけです▼今年もコロナ禍で大変でした。1年の疲れをのんびり癒し、気持ちよく新年を迎えましょう。（M）



本会の要望実現に向けて
今後の運動方針を決定
令和4年度政府予算

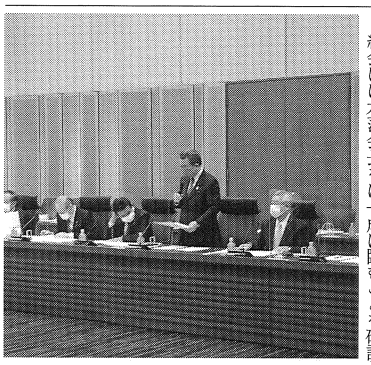
令和4年度政府予算の編成時期を迎え本会では、今後の運動方針に沿い、山積する諸問題解決のため、12月7日に遺家族議員協議会総会での陳情を経て同月13日、第76回全国戦没者遺族大会を開催し、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣をはじめ関係省庁、自由民主党所属国会議員への陳情運動を行う。

12月を迎え、岸田文雄内閣は令和4年度の政府予算の編成作業に着手した。本会では、概算要求がなされてはいるが、コロナ対策関連予算の重点配分が予測されることから年末の予算編成に向けて、政府に対して戦没者遺族がおかれている現状の理解を得るため、12月13日、第76回全国戦没者遺族大会を開催することを決定している。

遺族大会に先駆け、遺族会の応援団でもある遺家族議員協議会（会長・尾辻秀久参議院議員＝日本遺族会名誉顧問）は、先の衆院選後初めてとなる総会を12月7日、正午から参議院議員会館特別会議室で開催した。

総会に出席した水落敏栄日本遺族会会長＝参議院議員は、本会を代表して令和4年度政府予算に対する戦没者遺族の処遇改善等に関する要望を表明し、出席した議員、総務省、厚生労働省の担当部局担当者らに対して、要望事項の完全実現に向けて協力を要請した。また事務局からは、具体的な要望事項として、国家補償である公務扶助料、遺族年金等の改定。遺骨収集事業等では、DNA鑑定等の充実。戦没者慰霊事業等では、全国戦没者追悼式への参列者の増員と、国費参列者の旅費基準の見直し。戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、付き添い者の旅費の一部を補助願うなど、事業の充実等について説明した。

総会には水落会長をはじめ宇田川毅雄副会長、安齋満、江田肇両常務理事らが出席した他、衆議院議員50人、参議院議員20人の計70人が駆け付け、遺族会の要望事項の完全実現に向けて予算編成に臨むことを確認した。


遺家族議員協議会総会で挨拶する水落敏栄本会会長＝12月7日、参議院議員会館で

みんなで参拝の会　一斉昇殿参拝
超党派の国会議員99人

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（会長・尾辻秀久参議院議員）は、12月7日午前8時、靖国神社に一斉昇殿参拝した。

閣僚の参拝はなかったが、水落敏栄本会会長（参議院議員）をはじめ副大臣7人、大臣政務官2人、自由民主党、日本維新の会、国民民主党、NHKと裁判している党、無所属の衆参国会議員99人が揃って参拝した。

参拝後、記者会見に臨んだ尾辻会長は「国難に殉じていかれたご英霊に、コロナという国難に見舞われております。日本をしっかりと守ってくださいとお願いをしながら、参拝をさせていただいた」と述べた。

また、岸田文雄首相が参拝を果たされていないことについては「参拝されたいというお気持ちはお持ちだと思っている。早い機会にご参拝いただければ」と要望した。

同議連は、原則4月、10月の春秋の例大祭、8月の終戦記念日に合わせて一斉参拝しているが、コロナ禍に伴い昨年の春季例大祭から集団参拝を中断していた。

参拝した九十九人の衆・参議員は次のとおり。（党派別、敬称略）

議員本人参拝

▼衆議院

【自由民主党】逢沢一郎、青山周平、あべ俊子、石川昭政、石橋林太郎、石原正敬、井上信治、井林辰憲、うえの賢一郎、江藤拓、大串正樹、大西英男、大野敬太郎、奥野信亮、尾崎正直、城内実、北村誠吾、小島敏文、小寺裕雄、後藤田正純、佐々木紀、新谷正義、杉田水脈、関芳弘、高木啓、高鳥修一、高見康裕、武井俊輔、田中和徳、田中良生、田畑裕明、田村憲久、塚田一郎、土田慎、冨樫博之、長坂康正、中谷真一、中野英幸、西田昭二、平沼正二郎、藤丸敏、古川康、古屋圭司、星野剛士、細田健一、三ツ林裕巳、宮内秀樹、宮澤博行、宮下一郎、務台俊介、武藤容治、保岡宏武、簗和生、山口俊一、山下貴司、山田美樹、山本左近、若林健太、和田義明、渡辺博道

【日本維新の会】阿部弘樹、池畑浩太朗、一谷勇一郎、堀井健智、岬麻紀、和田有一朗

【国民民主党】鈴木敦

【無所属】西野太亮

▼参議院

【自由民主党】青山繁晴、赤池誠章、有村治子、宇都隆史、江島潔、衛藤晟一、尾辻秀久、小野田紀美、こやり隆史、佐藤正久、滝波宏文、柘植芳文、中西哲、中西祐介、長峯誠、野村哲郎、馬場成志、堀井巌、舞立昇治、牧野たかお、松村祥史、水落敏栄、三宅伸吾、山下雄平、山谷えり子、山本順三、和田政宗

【日本維新の会】東徹、石井苗子

【NHKと裁判してる党】浜田聡

【無所属】山﨑真之輔

尾辻会長を先頭に本殿へと向かう「みんなで参拝する国会議員の会」＝12月7日、靖国神社で

候補者決定に至って

日本遺族政治連盟　理事長　水落敏栄

全国のご遺族皆様には、日頃より大変お世話になっておりますこと、まずもって御礼申し上げます。

この度、緊急常任理事・監事合同会議において、来夏参院選の対応についてお諮りし、福井照さんを本連盟唯一の代表候補に決定いただきました。

平成28年の参院選後、職責を果たせるか自問自答し、また家庭の事情等を考慮し、出馬できないと判断し、この5年余り後継者を探してきました。得票や資金面を考慮し、当初は戦没者の孫で、著名人の方に打診しましたが、いずれも断られました。また全国の支部にも、適任者がいないか探していただき、残念ながらおられませんでした。

6月には都道府県本部長会議において、これまでの経緯を説明した上で、遺族会代表の候補を立て選挙戦を戦うことを確認し、候補者については理事長の水落に一任と決議していただきました。

本年夏には党から来夏参院選に対して出馬の意思確認がありました。私自身は出馬できないが、遺族会としては代表を立て選挙をすると組織決定されている。適任者がいないため、党にご紹介願いたいと伝えました。

党からは、遺族会のような意義ある団体から代表が出ないことはあってはならず、候補者探しを手伝うとの回答を得て、先月末ご紹介いただいたのが、福井照さんです。

福井さんは、昭和28年生まれの68歳。建設省で主に都市計画に携わり、平成12年衆議院高知1区から出馬し、連続7期当選、21年間在職されました。

国土交通政策に加え、農林水産、文教科学、領土問題等、多岐にわたる政策通です。

私との個人的つながりは平成26年衆参の文教科学委員長として、共に文部科学行政に汗をかいた間柄です。また、沖縄や北方問題に関する委員会等を通して、共に文部科学行政の歴史に触れ、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて意見を共有する同士でもあります。

遺族ではない福井さんに抵抗のある人もおられるでしょう。今更選挙をやるのは大変だというのも、正直な気持ちだと思います。

しかし、あの戦争で310万の方々が祖国の安寧と家族の幸せを願い散華されました。その犠牲を胸に、生き残った人々が平和な社会を作ろうと必死に働き今日の平和と繁栄があります。

私たちは、昼夜なく働く母に育てられました。母たちが願った平和な国、大切な人を戦争でなくすことがない様にするのが私たち遺族会の役目であります。

終戦から8年後に生まれた福井さんは、戦争の影を知る最後の世代です。何より遺族の代弁者として、国政に遺族の声を届ける覚悟を決めてください。

目前に迫った妻の特別給付金、特別弔慰金の継続には、遺族のために汗をかいてくれる遺族会の代表を国政に送らなければなりません。

来夏参院選まで6カ月余り、時間はありません。戦没者遺族の代弁者として、福井照さんを国政に送るべく、皆様のご理解、ご協力を何卒お願い申し上げます。

戦没者慰霊芳名碑が完成
岡山県総社市で

岡山県総社市の備中国総社宮境内の「忠魂碑」脇に「総社市戦没者慰霊芳名碑」が完成し、総社市遺族連合会（会長：江本公一）の主催で、11月12日に竣工・除幕式が執り行われ、岡山県遺族連盟大月健一理事長、総社市長などが来賓として参列し、戦没者の遺族など約40人が参加した。

この芳名碑は、先の大戦から76年が経過し、国民の9割以上が戦後生まれとなる中、戦争の教訓を風化させないよう、また、平和の大切さを後世に伝承しようと、総社市遺族連合会が建立したもので、明治時代以降の戦没者1，630人の名前が碑に刻まれている。

江本会長は「国のため死んでいった皆さんの名前を決して忘れてはいけない」と挨拶し、除幕式後、遺族は肉親の名前を探し、故人を偲んだ。

戦没者慰霊芳名碑が完成し除幕式が行われた＝11月12日、岡山県総社市で

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。
戦没者の英霊顕彰（遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝）、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。
次世代を担う青年部（孫・ひ孫）の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料／1,560円
（1年間 12回　税金・送料込）

お申込み
日本遺族会事務局　☎03-3261-5521

3年度援護事業功労者
本会関係 39支部96人が受賞

令和3年度の援護事業功労者に対する厚生労働大臣表彰の被表彰者が発表され、多年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、引揚者等の援護事業に携わった援護事業功労者、99人が受賞。このうち日本遺族会関係者96人が栄ある受賞に輝いた。今年度は昨年と同様に現下の新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、表彰式は開催しないこととなった。

厚生労働大臣表彰

大臣表彰は、昭和40年5月に第1回目の援護事業功労者として表彰され現在に至っているが、今年度は昨年と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から表彰式は開催せず、後藤茂之厚生労働大臣の挨拶並びに水落敏栄日本遺族会会長の祝辞が添えられ、表彰状と記念品が被表彰者96人に届けられた。

――◇――

表彰された本会関係の39支部96人の方々は次の通り。（敬称略）

【北海道】政岡昭、田中義廣、岡田健、稲田竟、荒木雅由 【青森県】小笠原俊仁 【岩手県】大和一信、山﨑幸男 【秋田県】田畑征子、野田口厚子 【山形県】佐藤弥太郎、阿部弥左エ門、榎本肇 【福島県】林成徳、齋藤肇、羽賀義直 【茨城県】秋元政由、奥沢恒男、吉澤登志江、荒木壽男 【栃木県】稲見和子 【群馬県】石倉義雄 【埼玉県】増田俊子、村田幸治 【千葉県】椿唯司 【東京都】岩井堅太郎、持田幸男、萩原秀邦 【神奈川県】井上卓麿、遠藤成雄、別所宏美 【富山県】田中照 【石川県】本春美、川北弘、早川征美 【福井県】山本輝子、松浦物左エ門、山本久和 【長野県】成澤秀敏、千國温 【岐阜県】西尾宏見、小栗基春、平野義子 【静岡県】大久保昌彦、伊藤慶子、後藤勝裕 【愛知県】浅田春美、内山勝義、幸村龍一、丹下幸夫 【滋賀県】山本起美郎、西村久一、藤田武男 【京都府】喜多美代子 【兵庫県】中島信子 【奈良県】田中實 【和歌山県】源出東洋士、間戸さと子、平野好彦 【鳥取県】青砥睦彦、小椋昭一、松井明敏 【島根県】吉村重男、宮内惠美子、黒﨑淑子 【岡山県】秀平良子、渡邊繁雄、寶藏史朗、古家野亘 【広島県】原好彦、池田郁子 【徳島県】山下善美、松田保治、萩原一徳 【香川県】柴﨑勲、藤田政英、図子浩次 【愛媛県】藤田忠正、山下重徳、武智保則 【高知県】大寺萬世子、石元俊郎 【福岡県】沖田勲一、山下和紀、倉田賢次、市川瀧司 【佐賀県】山口貢、井本甚一郎 【熊本県】堀人旻 【大分県】有田久士、中尾美登志、宮森智久 【宮崎県】佐藤守、竹田與志子 【鹿児島県】小濵忠孝、野下秀雄

謹啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より戦没者遺族並びに戦傷病者をはじめとする戦争犠牲者の援護事業にご尽力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

この度は、令和三年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰ご受賞、誠におめでとうございます。日本遺族会を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

この度のご受賞は、偏に戦争で犠牲となられた戦没者遺族あるいは戦傷病者等の援護救済に長年お力を尽くされた皆様の献身的なご活動の賜物と存じます。ここに改めまして深謝申し上げます。

本会は、二度と我々のような遺族を出さないという固い決意のもと、恒久平和な社会の構築を目指し、七十年余に亘り活動を続けて参りました。しかし、終戦から七十六年が経過し、戦後生まれが九割となった今、戦争の記憶は風化される一方で、世界では紛争が絶えず悲しみは繰り返されています。故に、本会は、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代へ語り継ぐため、戦没者の孫や孫等で作る青年部を結成、活動を始めております。

今日の我が国の平和と繁栄は、祖国の安寧と家族の幸福を願われた多くの方々の犠牲の上に、ひたすら平和な社会を求めた先人のたゆまぬ努力によって築かれていることを決して忘れることなく、二度と戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、戦争の風化を防ぐ「平和の語り部」として次世代青年部と共に活動を続けてまいりますので、どうか皆様におかれましても温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス新規感染者の増加は全国的にやや鈍化しているものの、感染拡大防止に配慮し、表彰式が中止されましたことは、誠に残念でなりません。本来であれば、皆様に直接お祝いと御礼をお伝えするところでございますが、書面でのご挨拶に代えさせていただきますことご、ご理解賜りますようお願いいたします。

結びに、受賞されました皆様の益々のご健勝とご多幸を心から祈念し、祝辞といたします。

令和三年十二月

一般財団法人　日本遺族会
会長　水落敏栄

講白

令和３年度の援護事業功労者表彰を受けられた皆様へ

この度、令和３年度の援護事業功労者として、晴れの表彰を受けられた皆様に心からお祝いを申し上げます。

皆様には、長年、それぞれの地域社会において、戦没者の御遺族、戦傷病者の方々、あるいは中国等から帰国された方々からの相談に御対応いただき、温かい御支援の手を差し伸べていただきました。

また、戦没者の慰霊事業への御参加、戦中戦後の労苦の継承など、援護事業に対し、様々な形でお力添えをいただいてまいりました。

ここに、皆様の御功績に対して、深く敬意を表するとともに、厚く御礼を申し上げます。

今、私たちが享受している平和と繁栄は、多くの方々の尊い犠牲と並々ならぬ御労苦の上に築かれていることを、決して忘れません。今後とも、国の果たすべき重要な責務として、援護事業の推進に努力してまいります。

政府として、援護事業を着実に進めていくために、皆様には、今後とも、これまでの豊富な経験と知識を活かし、なお一層の御尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本来ならば、表彰式において直接御挨拶を申し上げますところ、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、皆様の安全を第一に、昨年度に続き、今年度の開催を見合わせることといたしました。何卒、事情を御賢察の上、御理解賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の御功績に対して、重ねて厚く御礼申し上げるとともに、今後ますますの御多幸を心からお祈りいたします。

令和３年12月

厚生労働大臣　後藤茂之

お父さんへ

第80回

父さん、私やっとここまで来ることが出来ました。父さんの娘武子です。

父さんは私に父さんの名の一字を下さいました。だから私の側にいつも父さんが居てくれます。この名前大好きです。

私の兄さん達、一次兄さん、貞夫兄さん、述史兄さん、そして、父さんの一番下の妹のサク子叔母さん、皆、幸せに暮していますよ。

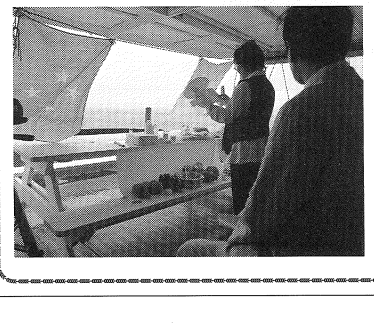
父さん、私がトラック諸島より出した7年前のはがきを母さんと一緒に読んで下さいましたか？はがきにも書いた様に、私は、よく実家に行きます。特に、叔母さんと兄さん達が昔の父さんの話をすることがあります。私、父さんの記憶は何一つありませんが、なぜかなつかしい気持ちになります。不思議ですね。

それからね父さん。日本は今、悲痛な運命に逢われた父さんたちの意思にむくいる様に、皆が手をたずさえて世界に誇れる国に作り上げてきました。世界平和に大きく貢献できる国家にですよ。どうぞ安心して下さい。これも、父さん達のおかげです。父さん、そして皆さん、ありがとうございます。

今の日本を父さんにも見せてあげたいです。

父さん、それから私が見えますか？私の声が聞こえますか？今、ここに立っている私、とても幸せです。この次は、父さんの最後の島で父さんの横に座り、母さんのこと、兄さん達のこと、そして、今の日本のことなど沢山沢山話したいと思っていますよ。それまで、楽しみに待っていてください。

10月13日　トラック環礁、春島西方沖にて（平成26年度トラック・パラオ諸島参加者、茨城県笠又武子氏追悼文より抜粋）



遺児の参加者募集

慰霊友好親善事業

募集要項については次の通り。

▼**時期及び地域**　実施計画概要参照。実施計画概要で広域地域の※印については、フィリピン地域二次はルソン島西方沖、台湾・バシー海峡地域はバシー海峡で洋上慰霊または機上遥拝を予定。

▼**参加費**　10万円。東京都等の集合場所から、日本帰国後の解散場所まで。その他にかかる費用は個人負担となる。

▼**参加資格**　戦没者の遺児。（周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る）

▼**申込方法**　在住する各都道府県遺族会事務局へ。なお、申込多数の場合は選考となる。

実施地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期、中止となる場合がある。また、新型コロナウイルス感染症では、安全が確認された上で実施の有無を各地域の締切日を待って決定するので、予めご了承願いたい。なお、参加者の高齢化に考慮し、看護師が同行する。

実施計画概要

（広域地域）

	地域	時期	募集人員	申込締切	感染症危険情報
1	※フィリピン（２次）	令和４年 ３月11日～３月18日	120人	１月７日	レベル３
2	※台湾・バシー海峡	令和４年 ３月23日～３月29日	40人	１月12日	レベル２

※12月14日現在、外務省ホームページより。
感染症危険情報：レベル２　不要不急の渡航は止めてください。
：レベル３　渡航は止めてください。（渡航中止勧告）

第66回 奉納菊花展
靖国神社で開催

靖国神社において第66回奉納菊花展が10月16日から11月5日にかけて開催された。

11月25日には、靖国会館において奉納菊花展の表彰式が行われ、畔上和男日本遺族会相談役が出席し、祝辞を述べるとともに、次の作品に日本遺族会会長賞が贈られた。

新聖光の朝　原田修次
泉郷情熱　鎌田政男
聖光白峰　河野勝義
多摩の景勝　半田恒雄
（順不同　敬称略）

巡回特別企画展開催
島根県で1842人が来場
昭和館

昭和館が毎年各地で実施している巡回特別企画展が、10月29日から11月7日まで松江テルサホールで開催された。本展は東京にある国立施設、しょうけい館、平和祈念展示資料館との連携展で、昭和館は「くらしにみる昭和の時代　島根展」と題し、昭和の島根県に関する実物資料や写真の展示を行った。

東京都の九段下にある昭和館では、平成13年から巡回特別企画展を開催しており、40回目の開催となる今回の展示会は東京にある国立施設、しょうけい館、平和祈念展示資料館と三館連携で実施された。

昭和館の「くらしにみる昭和の時代　島根展」では、戦争がもたらした苦難や昭和の人々のくらしぶりを伝える実物資料や写真、映像などが約60点展示された。松江に学童疎開した子どもが東京の空襲を案じて両親に宛てて書いた手紙や、浜田市出身のオリンピックメダリストが参加した体操大会のポスターなど、約50点が島根県に関係する資料となった。

特設展示では島根県出身の人物を取り上げたコーナーを設け、永井隆による画や手紙を展示、戦後の戦犯釈放運動に尽力した加納莞蕾を紹介した。また、島根大学によるパネル展示では県内の戦争体験の継承に関する取り組みが紹介された。

映像コーナーでは戦中・戦後の島根県に関わるニュース映像を放映したほか、加納莞蕾の四女・加納佳世子さんが戦後の家族の苦労について語った証言映像を初上映した。

新型コロナウイルス感染拡大への警戒が依然として続くなかでの開催だったが、会期中は地元メディアの取材も多く、1842人の来場があった。

（問い合わせ先・昭和館学芸部☎03-3222-2577）

展示資料を見学する来場者

愛しきものへ

大晦日友に宛てた葉書

海軍大尉　古橋　雅夫

昭和二十年八月三日
フィリピン方面にて戦死
東京都淀橋区角筈出身　二十一歳

前略
愈々今年も後四時間です。少し早いですが「新年おめでたう」。
さて私の此の三重空に於ける基礎教育も未だ不完全ながら、何うにか終了し、来年早々退隊し、外地へ征く事になりました。
意気天を衝くものがあります。
本日、大掃除後不意に外地へ行く者の発表があり、私の名が呼ばれた時の気持ち、…まるで戦地へ征く様な、又、決死隊に選ばれた様な、愉快な何とも云へぬ気持ちでした。
まうこれで当分の間お便りできない事と思ひますが、戦地に征く迄は、元気に訓練を受けて居ると思つて下さい。
ではお元気でおくらし下さい。

※三重空―三重海軍航空隊

（原文のまま）

【令和三年十二月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　安元百合子

猿島の海軍遺産を巡り終へ亡父の声かも耳をかすめり　千葉市　石橋嘉子
子を想い妻を想いて没したるソロモン海は父眠る海　富士吉田市　萱沼勝由
招聘の高校生二人進み出て菊花を捧ぐ令和三年慰霊祭　佐世保市　田中暁
栗ご飯戦死の父に供へし夜孫に聞わるる輸送船とは　南相馬市　柴田征子
戦死せし父の無念をひい孫に伝えて三人分のアイス並べる　佐世保市　富永八重子
終戦日忘れてならぬ国の為いくさに死にし人思う夕べ　甲州市　数野星子
昭和館に明日は贈ろうと言いながら軍服眠らせし母は十三回忌　青森県　田中恭子
悲しきは命捧げし特攻を来世で逢おうと送りし中将　横浜市　中俣功
朝夕に遺影の父に手を合わせお守り頂く感謝の日々を　長浜市　雨森貴子
黒き布電球にかけ身を寄せ合ひB29去るをただに待ちぬき　静岡県　芹澤和子

◇

猿島は横須賀市に属し、東京湾内の唯一の無人島です。戦時中は軍の要塞で兵舎や弾薬庫などがありました。戦後は米軍の占領下におかれました。今は見学コースも設けられています。

令和三年もはや師走となりました。コロナに明けコロナに暮れる一年でした。その為、各地での慰霊祭は例年通りに施行できなかったという残念な年でもありましたが、私たちがご英霊を祀り続け、祈りを捧げ続けることで孫や曾孫に思いを伝えられることでしょう。

皆様、どうぞお元気で良いお年をお迎えください。

（選者）

長崎・北海道で日章旗返還
OBONソサエティ

「戦没者等の遺留品返還に伴う調査」事業で、OBONソサエティから本会に照会があった日章旗について、長崎県と北海道で遺族が判明した。

長崎県では、日章旗が長崎市出身で、昭和20年8月16日、中国（旧満州）で戦死した松尾昇さん（享年29歳）のものであることが判明した。

日章旗は、米国モンタナ州在住のリチャード・クラークさんが保管していたもので、長崎県連合遺族会、諫早市連合遺族会の調査により、甥の松尾豊彦さん（84歳）が諫早市に在住していることが分かった。

旗には「長崎高商」（長崎大経済学部の前身）と記されていて、柔道部だった先輩の昇さんの武運長久を願って、後輩たちが寄せ書きをしていた。

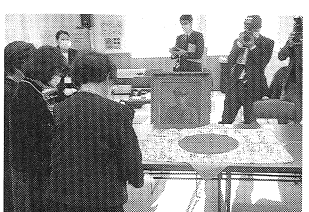
11月5日、長崎県護国神社で返還式が行われ、県連合遺族会の山下裕子会長から豊彦さんへ日章旗が引き渡された。受け取った豊彦さんは「叔父の記憶はないが『俺が還って来るまで元気でいてくれて、ありがとう』と声をかけてもらったような気がした。」と話した。

北海道では、米国ルイジアナ州在住のマーク・シェルトンさんが、戦時中にソロモン諸島ガダルカナル島に駐留していた元米兵の叔父から譲り受け保管していた日章旗が、北見市常呂町出身で昭和17年8月21日、ガダルカナル島で戦死した新江繁規さん（享年23歳）のものであることが判明した。

判明した情報を基に、北海道連合遺族会、北見市遺族会の捜索で、妹の中股かず子さん（90歳）が同町に住んでいることが分かり、11月6日、北見市老人いこいの家で返還式が行われた。

返還式には、中股さんの妹の渡部規子さん（85歳）と工藤早苗さん（80歳）も出席し、兄の遺品と79年振りの再会を果たした。中股さんは「遺骨も戻らなかったので、唯一の形見。長生きしてよかった」と話し、9人きょうだいの長男だった繁規さんを網走駅で見送った時に「自分の分まで親孝行を」と優しかった兄から頼まれたことを思い返して、日章旗を手に取り「おかえり」と涙ぐんでいた。

日章旗を受け取った松尾豊彦さん（右）＝11月５日、長崎県護国神社で


79年振りに兄の遺品と再開した仲股かず子さんら姉妹＝11月６日、北見市老人いこいの家で

本会への賛助金のお礼

本紙でもお願いしている本会への賛助金につきまして、ご賛同いただきました左記の方々に対し、お礼申しあげます。

なお、大変恐縮ではございますが都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合がありますので、省略させていただきます。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）立澤せつ子、遠藤カオル、百田節子、正木敏順、宮川ハナエ、山﨑雅文（以上、11月1日から11月末日まで）

皆様からいただきました賛助金は、本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただいております。

誠にありがとうございました。

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替　00130-2-169429
●みずほ銀行　九段支店　普通預金　0980930

※口座名は、一般財団法人日本遺族会＝サイ）ニホンイゾクカイ

「九段短歌」は都合により来年2月から休載いたします